

中外新聞

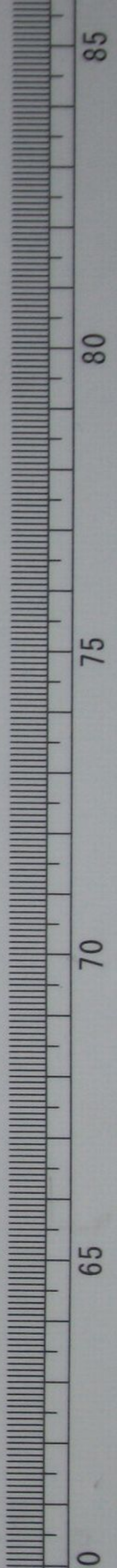
外篇

一



定價一錢

西垣文庫
文庫10
7328
1



特 文庫10
7328
1



さしつゝより。承仕申すをあたかし
中印新聞。やうく世々廣く行そ
のの。諸方よりほい来たる材料
のい。上様をさるんか。脱漏は
遺恨なき。い。い。い。友人は部
了。い。い。い。外編をか

西垣文庫

彼はあつて。邊海はうらたえ
 ねる。一しよ。おはさし。そのまじり其
 ら。いひあき。あつね。と。いふ。うら。家
 ひら。と。と。尚。あつ。あつ。譯文を。同
 し。人。お。ま。し。し。海。つ。魚。く。ねん。
 其。應。四。年。四。月。括。河。於。善。院。

中外新聞外篇卷之一

慶應四年四月

或人の建白書

小臣是を海外の知己ちきと曰く、近日魯西ろし亜首あしゅといく、同盟諸国
 又報告有し、其大趣旨おほしめは云、東洋日本との定約ていやくは、徳川氏幕府
 の職しやくも時結ときむすび一処、今日に至りては政權せいけん 朝廷又帰納きゅうなつせ
 うと雖も、其国の大臣會議だいじんかいぎ一定事有之を不同、一二の侯伯倉
 卒そと又出るもの尤以て可疑うたがひ其定約ていやくを究問きうもんし、其情実じやうじつを尽つし、
 其可討そのたうハ討うち其可助そのすけハ助すけ之ハ大國小國を保護ほごし而しかく、其
 国の生靈せいめいの塗炭とたんを救すくふも、各国定約の大信公義だいしんこうぎの至いたる處
 あり同志同約どうしどうやくの諸国ハ、共ともに軍を整ととのへ、速すみに其是非を問とんと、

其实否^{しつふ}に至りても未^まど如何^{いかん}を不知^{ちり}と雖^なも、必^{かならず}其事^{こと}発^はせんや
必^{かならず}せり、後^い古^こ来^き諸^{しよ}国^{こく}西洋^{せいやう}各^{かく}国^{こく}の内^{うち}、蹂^{しゆ}躡^{じゆ}内^{うち}附^{つけ}を^を比^ひ
として、皆^{みな}同^{どう}属^{じゆく}其^{その}国内^{こく内}の、小^{せう}是^{ぜい}非^ひを相^{あひ}争^{せう}ひ、終^{つひ}に其^{その}国家^{こくが}を失^しふ
を不^ふ察^{さつ}私^しを逞^{てい}ふ、其^{その}極^{ごく}其^{その}世^よを破^{やぶ}り、出^いて、今^{いま}や英^い吉^き利^り
を兵^{へい}庫^こに至^{いた}り、佛^{ふつ}蘭^{らん}西^{せい}米^{まい}利^り堅^{けん}を横^{やう}濱^{ひん}に居^ゐる、英^いの下^{した}風^{ふう}を不^ふ好^{こう}
豈^{いか}其^{その}国^{こく}の下^{した}に附^{つけ}んや、大^{だい}信^{しん}を唱^{とな}て、以^{もつ}て我^{われ}
皇^{わう}国^{こく}を内^{うち}附^{つけ}せん、誠^{まこと}に其^{その}真^{まこと}意^いの、何^{いかん}の処^{ところ}之^をを掌^{しやう}上^{じやう}に視^み
が如^{ごと}し、然^{しか}るを不^ふ思^し、侯^{こう}伯^{はく}黙^{もく}止^しして、只^{ただ}其^{その}領^{りやう}国^{こく}を固^こ守^しせん、
是^{こゝろ}を千^{せん}百^{ひやく}歳^{さい}の後^{のち}に、公^{こう}議^ぎせしめ、將^{しやう}報^{ほう}国^{こく}と、
支^し那^なの轍^{ちやく}不^ふ遠^{えん}、朝^{てう}廷^{てい}を屏^{へい}汚^ごし、

皇^{わう}国^{こく}を内^{うち}破^{やぶ}る、其^{その}責^{せき}何^{いかん}人^{ひと}より、況^{いかん}んや、今^{いま}日^{にち}百^{ひやく}年^{ねん}を不^ふ待^たし、
て、小^{せう}臣^{しん}其^{その}詳^{しやう}解^{かい}を問^とん、以^{もつ}て希^{まれ}く、私^し意^いを去^さり、公^{こう}平^{へい}至^し當^{たう}を以^{もつ}
て、小^{せう}臣^{しん}の疑^ぎ惑^{ごく}を解^{かい}ん事^{こと}を、誠^{まこと}恐^{おそ}謹^{じん}言^{げん}

題^{だい}しらん
とみ人しらん
国^{こく}中^{ちゆう}も、さし、たけ雄^{ゆう}と、さなれと、行^い州^{しゆう}あ、まね世^よの、
う、か那^な

或^{ある}日^{にち}勝^{しょう}安^{あん}房^{ぼう}守^{しゅ}の歌^{うた}

蝦^{せま}夷^い地^ちの、後^{のち}に、付^つ井^い上^{じやう}石^{せき}見^み献^{けん}白^{はく}書^{しよ}
萬^{まん}事^じ本^{ほん}源^{げん}は、不^ふ著^{しやく}眼^{がん}、其^{その}末^ま起^きる事^{こと}難^{がた}し、国^{こく}家^か富^ふ強^{きやう}の本^{ほん}は、四^し民^{みん}

各職業を尽せしむるに就中農を国の本ある故に其本業を尽せしむるの道立されば国土の疲弊補ひ難し農を尽すの本を地を拓き人民を増殖せしむるに人民を増殖せしむるの本を事を簡易にして夫役を省略し器械を以て民力を扶くるにあり西洋諸国蒸気器械を發明し民力国中より餘有るに故に自然拓地育民の業を起し或は万里の外より数千人を出し開港交易の大利を謀るに至る我國近年内外多事晝夜東西の夫役幾千万と云事を知らば是等の民力を補ふの道立ざる時に田野荒廢及ぶと又自然の理あり蝦夷開拓の事に北陸の大事勿論不可忽の要務あれば其手を下すの道さめく

緩急の術ありたりれども畢竟又内地の民を移さざれば成功を遂げ難き事あれば第一内国旧地の荒廢せざる様夫役を省畧し器械を製造して人民を生むるの策今日の急務と奉存以事

三月

○大垣侯届書

當月八日武州羽丹生村辺に歩兵屯集の由に付薩州長州并弊藩人數為斥候繰出に処築田宿に集り居に付一同出進翌九日朝六半時過より及砲戦九時頃迄は賊徒尽く敗走討取分捕等も多分有之趣急便を以て越に於出先

右總督の本陣へも、右届中上の趣への座以得共、此段不取
敢出届中上の以上

三月十七日

○

因州 土州 薩州 長州 大垣

右甲州勝沼、武州羽丹生村、両所をわいて、賊徒屯集砲銃を

以て要地を據り、官軍を相抗し、以て勇戦を遂げ、忽ち掃撃を
及び、殊に初戦の儀、三軍の気鋒をも興し、現地の情実達し
敵問は満足す

思召し、猶此上精忠を擢て、速に賊巢令平定可奉安
宸襟旨は、仰出、此段戦士へ可相達
以沙汰の事

三月十九日

○雑説

四月十四五日の頃、亞米利加飛脚船に乗る、殖民の為、亞米利
加国へ至るもの、三百人許、皆外国人を雇われ、給金

と一^んト^ルラル、五ヶ年を期^きと^ん或^る日本^に医者^の書生^も
乗^り組^むより^いよ^し、評^判の^い猶^ほ此^に上^に追^ひ送^り遣^らん^して^人を
集^め居^るよ^しあり

題^あら^んば

と^ん人^のい^ふば

君^があ^らめ^し身^を尽^して^む難^波う^らあ^らう^るり^とや^ら
り^とや

或^日 中^島三^郎助^の歌

○ 奥^州福^島へ四^月十^七日^迄、仙^臺より凡^二千^程の兵^隊出^る
相^成勅^使の廿^一、廿^二日^の頃[、]福^島着[、]由^滞留^とり、導^近、白^川
す^て人^數繰^入相^成の^由

